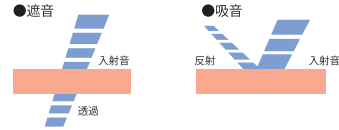


防音性

パイル密度の高さが、優れた遮音・吸音性能の秘密。
騒音を抑え、快適な音環境づくりに役立ちます。

遮音とは入射音を透過させない、つまり音の伝わりを遮断すること。吸音とは入射音をね返さない、いかえれば音の反響を小さくすること。遮音性だけを高めると、部屋中がピンピン響く残響現象が起こり、内部の人は生理的に苦痛を感じてしまいます。しかし同時に吸音性を高めると、同じ騒音であっても反射音が吸収され、快適な音環境をつくることができます。一般に「防音」は遮音と同じ意味に使われていますが、このように遮音と吸音の両方をコントロールすることが、防音では大変重要だということが分かります。カーペットはパイル密度が高いものほど、またフォームバックキングを施したもののほど、高い防音性能を発揮します。ロボフロアーは、約7000万本以上/m²という驚異的な「超高密度植毛」と、「防水性P.V.C.バックキング」により、遮音と吸音のダブル効果を発揮。生活騒音をカットします。



ロボフロアーの遮音性能について (測定結果)

床衝撃音レベル低減量

建物の現場における床衝撃音レベルの測定法に基づき測定。周波数ごとに音の大きさを分析し、その大きさによって遮音等級を判定。アスワンでは、軽量床衝撃音レベル低減量を測定・採用しています。ロボフロアーは木質床やPタイルに比べると、2~3ランク上の遮音性能を獲得しています。

遮音等級と生活実感の目安 (日本建築学会)

Δ (デルタ) L等級は、遮音性能の新しい表記です。従来の「LL-40」などの推定L等級から「ΔL等級」に表記の変更がありました。現場状況と同じ商品でも生活実感が異なっており、客観的な判断基準で算出したのが「ΔL等級」です。目安として従来のLL等級も併記しています。

■ロボフロアーの遮音等級

タイプ	床衝撃音低減性能の等級
ロボフロアータイル	ΔLL (I) -1 (従来の等級LL-65)
ロボフロアーシート	ΔLL (I) -1 (従来の等級LL-60)

※上記の試験結果は測定値であり、保証値ではありません。

■床材別

コンクリート裸床	L-80等級
Pタイル	L-80等級
ビニル床シート	L-75等級
一般直貼り木質床	L-75等級
複合ビニル床シート	L-70等級
コルクタイル	L-70等級
クッションフロア	L-65等級

※上記の試験結果は測定値であり、保証値ではありません。

床衝撃音低減性能の等級	床面衝撃音低減性能の等級に対する集合住宅の生活状態		
	従来の表記	足音・走りまわる音などに対する感じ	集合住宅の生活状態
ΔLL (I) -7	(LL-30)	ほとんど聞こえない	全く聞こえない
ΔLL (I) -6	(LL-35)	静かなとき聞こえる	まず聞こえない
ΔLL (I) -5	(LL-40)	遠くから聞こえる感じ	気がねなく生活できる
ΔLL (I) -4	(LL-45)	聞こえるが気にならない	少し気をつける
ΔLL (I) -3	(LL-50)	ほとんど気にならない	やや注意して生活する
ΔLL (I) -2	(LL-55)	少し気になる	注意すれば問題ない
ΔLL (I) -1	(LL-60)	気になる	お互いに我慢できる限度
	(LL-65)		

※読み方例 ΔLL (I) -3・・・デルタエルエルワン3とうきゅう

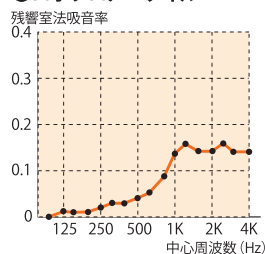
床材の 카테고리	カテゴリー-I	カテゴリー-II	カテゴリー-I
該当するアスワン商品	ロールカーペット タイルカーペット ピースカーペット	—	グリッパー 工法による ロールカーペット

ロボフロアーの吸音性能について (測定結果)

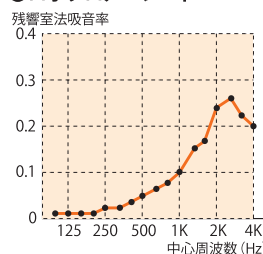
■試験方法/JIS A 1409

残響室法吸音率の測定法に基づき周波数ごとに吸音率を測定

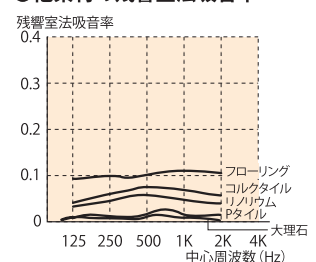
●ロボフロアータイル



●ロボフロアーシート



●他素材の残響室法吸音率



※上記の試験結果は測定値であり、保証値ではありません。